

# 平成29年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

## 【東北農政局長賞】

マグロという新しい「目玉」が人を変え、地域を変える

受賞団体：「深浦マグロ料理推進協議会」（青森県深浦町）

### ◆むらづくりの背景・経緯

深浦町は、青森県の南西部に位置し、西は日本海に面し、東は世界自然遺産白神山地に連なり、南は秋田県に接している。町の基幹産業は水産業であり、町の海域において寒暖流が交流する好漁場が形成され、県内最多を誇る漁港を活用して四季を通じた活発な漁業が営まれている。マグロ、マダイ、サクラマス、ヤリイカなどの漁獲量は県内トップクラスである。

水産業の外にも農業、観光業が盛んな地域であり、旅行目的として「食」が注目される中、ご当地グルメによる交流人口増加に向けた取組を模索していたところ、平成24年のリクルートじゃらんリサーチセンターのヒロ中田氏の講演会をきっかけに、漁獲量が県内一であるにもかかわらず知名度が低かった深浦マグロを地域資源として捉え、食を核としたむらづくりに取り組むこととした。平成25年1月に深浦マグロ料理推進協議会（以下、「協議会」という。）を設立し、地域住民が主体となって半年間で33回のグルメ開発会議を開催し、100以上の試作を経て、平成25年6月に「深浦マグロステーキ丼」がデビューした。

### ◆むらづくりの内容

#### ○漁業生産面

水産業・農業・観光業等が一体となって、「深浦マグロの旬は夏！」をキャッチコピーに、マグロ料理グランプリの開催や新商品の開発のほか、町でも新・ご当地行政マンとして「鈴木マグロー」のタレント化や踊る公務員「深浦マグロボーイズ&バックダンサーズ（FMB）」などのPR、また、マグロ以外の食材も地元産を使用するなど、深浦マグロステーキ丼の販売を核とした様々な取組により「マグロによる観光まちづくり」を行っている。この結果、デビューから3年で12万食を販売し、深浦マグロの市場価格が1キログラム当たり約200円上昇するなど、その経済効果は約6億5,000万円となった。



深浦マグロステーキ丼

#### ○生活・環境整備面

マグロステーキ丼に関わる様々なイベントにより地域振興に携わる人が増えており、地元高校生によるマグロ料理グランプリへの参加や料理開発などにつながっている。

また、協議会の取組が県内各地域に波及し、県内4地域で新・ご当地グルメがデビューし、協議会を含めたこれらの団体により構成される新・ご当地グルメネットワークあおもり（S-1あおもり、平成28年4月設立）では、協議会がリーダー的役割として活躍している。



5時間で3,000食を販売した  
「マグログランプリ2014」